

行政視察報告書

視察報告者 小野 仁志

【視察期間】 令和元年 10 月 29 日～令和元年 10 月 30 日

【視 察 日】 令和元年 10 月 29 日

【視 察 地】 熊本県熊本市

【視察項目】 西部環境工場について

【調査概要及び所感】

旧西部環境工場の老朽化に伴い、平成 24 年から新西部環境工場の施設整備、平成 28 年から運営事業を開始されDBO方式(公設民営)が採用されている。

新西部環境工場は、熊本地震からの復興のため予算が確保できず解体されずに残った旧施設に隣接している。新設の際の用地をどこにするかという点において、地元の住民の方などの反応を聞いたところ、やはり反対意見もあったことから、丁寧な地元説明が必要なことと、100メートルほど離れた西部交流センターにおいては、工場で発生した熱を利用した入浴施設が整備されている。それに加え、施設整備における市内企業の最大限活用や、運営段階での地元人材、障がい者雇用を創出するなど、地元への貢献が配慮されている。

ごみの焼却熱を最大限利用できる最新燃焼技術や水循環システム導入による節水効果、発電を最大化することによる温室効果ガスの大幅削減は、新施設としては

もちろんだが、自動燃焼システムについては、導入されていない状況であった。

大分市においても新環境センターの整備がこれから始まるが、長期的なビジョンの中で何が最善かを考える際の参考になる視察であった。

【視察日】 令和元年 10 月 30 日

【視察地】 福岡県北九州市

【視察項目】 小倉城周辺魅力向上事業基本計画について

【調査概要及び所感】

小倉城の現地を視察し、街のシンボルとして、また歴史的・文化的資源として、そして観光資源として、城があるというのは大変羨ましく感じた。当日も多くの観光客で賑わっており、現存天守でも復元天守でもない、復興天守でありながら、こうした観光客が集まることに驚いた。30年ぶりに展示内容と内装を一新し、平成31年3月30日にリニューアルオープンしてからは、大変好評であるとのことであったが、それも頷ける施設となっていた。

また、城のみではなく、小倉城周辺魅力向上事業として、テーマを北九州小倉ならではの歴史的・文化的な資源を活用した集客力や回遊性のある観光・文化の名所づくりとして掲げ、エリアを歴史ゾーン・文学ゾーン・市民の憩いと交流ゾーンに分け、

また市役所庁舎や近隣の大型商業施設も含め、地元住民にとっては生活に身近な、そして来訪者にとっても非常に魅力的な市内のスポットになっていることが感じられた。

大分市においても、府内城址周辺のあり方を、あらゆる角度から議論するにあたって、大変参考になる視察となった。